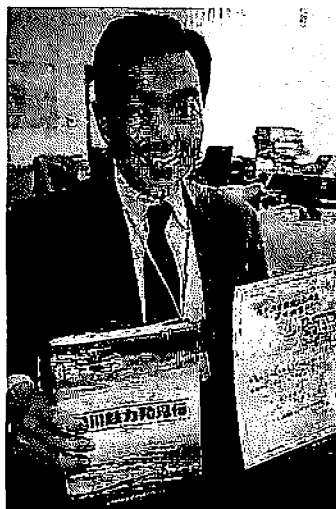


旭川大雪観光文化検定

本紙でもたびたび取り上げられましたが、旭川初のご当地検定が本年三月二十日に実施されました。七百名を超える受験者がチャレンジしたことで、主催者によれば、想定をはるかに上回る数だったとのこと。また、公式テキストブックの販売は千数百部とのこと、いろいろな事情で今回は受験できなかった

目銀所長の
あさひかわ楽
③

公式テキスト、合格証書認定カードを手に



が、勉強だけはしておきたいと思つた方々も結構いたということでしょう。

小職も、この機会に当地の歴史や文化、話題等を学んでおきたいと思い、チャレンジしました。とてもいい勉強になりました。責任以来、手探りで当地のことを断片的に学んできましたが、何よりも体系立てて勉強

強できたことが収穫でした。また、地域に住む人が地元を誇りに思い、自信をもって外部に伝えていくということは、経済活性化の観点からも有効だと思えます。改めて、関係者のご尽力に敬意を表すると共に、今後に向けて思うところを三カ記します。

まずは、旭川の魅力を再発見しようと思い、自ら一歩足を踏み出して行動した方がこれほどの数に及んだ

という事実は過小評価されるべきではありません。このような方々の意気込みを呼び水（原動力）にして、何とか地域活性化につながることを期待しています。

次に、今後も継続的にこの検定試験に関心をもってもらうための仕掛けが必要でしょうね。業務目的で受験される方は別として、多くの場合、自主的に自己啓発のためにやる訳ですから、十分なインセンティブ

付けが必要ですね。学び、語ることの楽しさへいかにつなげていけるか。究極的

には、地元すなわち自分たち自身のためという意識をいかに共有できるかだと思います。

そして、最後に、一番重要なことは、この検定に向けて学んだ人が、それぞれの立場でこれから何をするかということ。北海道は絶対の季節になってきました。街に出て、私たち一人ひとりに何ができるか考えてみようではありませんか。

（日本銀行旭川事務所長）
※毎月第一週に掲載します

屋敷啓之（おいらぬき）さん（一九五八年（昭和三十三年）東京都生まれ、八二年（同五十六年）日本銀行に入行。米国ワシントンでの勤務や、橋本内閣の行政改革会議事務局への出向、総務人事企画役などを経て、〇七年（平成十九年）から旭川事務所長。趣味は音楽全般、ミュージカル鑑賞、社交ダンス。